

令和5年6月29日

南の風 FIBA 女子アジアカップ特集号 I

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

現在、オーストラリアのシドニー（キーセンター）で行われている、アジアカップの様様を書きます。

アカツキジャパン女子日本代表（世界ランク9位）は、予選Bグループでこれまで、チャイニーズ・タイペイ（世界ランク33位）とフィリピン（世界ランク42位）と対戦した。

結果は、日本 **94-53** チャイニーズ・タイペイ

日本 **95-57** フィリピン

と2勝した。

そして28日（水）、グループBのベスト4を懸け、オーストラリア（世界ランク3位）と対戦した。因みにこのゲームに勝利すると、4位以上が確定し決勝トーナメントに進出し、パリオリンピック最終予選出場（2024・2月、開催地は未定）が決定する。負ければ、グループAの2位の国とベスト4の座を懸けて対戦することになる。

それでは、オーストラリアとの一戦を戦評風を書きます。

女子日本代表のスターターは前2戦と変わらず、23番山本 麻衣、27番林 咲希、3番馬瓜 ステファニー、88番赤穂 ひまわり、8番高田 真希。

立ち上がり、ターンオーバーからオーストラリアに速攻を許し、さらに連続3Pシュートを決められ、**0-8**とされる。日本の初得点は、ステファニーのペイント内ターンアラウンドショットだった。さらにステファニーのジャンプショットが決まる。オーストラリアは、スクリーンから日本ディフェンスのズレを作ったり、ハードコンタクトで押し込んだりして得点を重ねる。

日本は残り6分弱に、59番星 杏璃のスティールから高田が速攻を決める。さらにステファニーのスティールが決まり、ディフェンスからいい流れを作る。すると残り4分左ウイングから31番平下 愛佳が3Pシュートを沈める。続けて32番宮崎 早織がドライブからレイアップを決め11-15と4点差に詰める。

日本は残り3分、15番本橋 菜子を投入し、32番宮崎と2ガードに。速い展開に持ち込むと、交代で出た99番オコエ 桃仁花が連続得点を上げる。一旦2点差としたが、オーストラリアにフリースローで追加点を奪われ、**《日本15-21オーストラリアで1Q終了》**

2Qに入る。先に得点したのはオーストラリア。リズムを掴みたい日本は、残り8分弱スローインから23番山本がトップの位置で3Pシュートを決める。ここでオーストラリアは、高さを生かしてオフenseリバウンドを奪い引き離そうとする、苦しい展開の中、日本はディフェンスからリズムを掴み、3番ステファニーがジャンプショット、27番林が3Pシュートで繋ぐと、今度は23番山本がトップから、右ウイングから連続3Pシュートを決める。残り5分で**33-32と逆転**する。

終盤、8番高田のタイミングのいい連続シュートブロックが飛び出すと、99番オコエの3Pシュート&ドリブルレイアップシュート、23番山本のディープ3Pシュートもさく裂し、一気にリードを広げることに成功した。日本は何と、この2Qだけで6本の3Pシュートを沈めている。

《2Q終了時、日本44-32オーストラリア》でハーフタイムを迎えた。

Ⅱ号に続けます。